

営農情報 (大豆)

令和2年8月26日

(大豆営農情報 8月号)

J A福岡大城・南筑後普及指導センター

1 大豆の生育概況

播種は7月17日頃から開始されましたが、7月下旬の大雨により浸水したほ場の一部で播き直しが生じました。播種のピークは、7月18～19日頃と8月1～2日頃となっています。生育は順調に進んでいますが、播種時期に2週間ほどの差があるため、生育差が見られます。

2 病虫害防除

ハスモンヨトウの発生は現在のところ平年並みの状況ですが、今後の気象次第では多発する恐れがあります。特に開花期（8月下旬～9月上旬頃）に食害を受けると、収量低下の要因となるため、下記の時期を目安に防除を実施します。

【1回目防除】 9月 2～7日頃（ハスモンヨトウ対策）

※フェロモントラップのピークから10日後が防除のタイミングです。

※大豆の生育が早いほ場では、周囲のほ場と比較して、食害を受けやすくなるため、注意してください。ハスモンヨトウの防除は、幼虫体長が2cm位までが適期です。

対象病虫害	薬剤名	希釈倍率	100Lあたり 薬剤量	使用回数
ハスモンヨトウ	プレオフロアブル	1000～2000倍	100～50ml	2回以内

※【散布量】10a当たり100～300L(大豆の生育状況に応じて調節してください。)

【2回目防除】 9月20～25日頃（ハスモンヨトウ、カメムシ、紫斑病対策）

カメムシ類の防除適期は開花期20～30日後頃です。ハスモンヨトウの防除と合わせて必ず実施します。

対象病虫害	薬剤名	希釈倍率	100Lあたり 薬剤量	散布量	使用回数
ハスモンヨトウ	プレバツフロアブル5	4000倍	25mL	100～300L (3剤混合)	2回以内
カメムシ類	キラップフロアブル	2000倍	50mL		2回以内
紫斑病	トップジンM水和剤	700～ 1500倍	140～70mL		4回以内

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！